

キアゲハ

Papilio machaon

アゲハチョウ科



キアゲハ

名前の由来

黄色いアゲハチョウの意味。アゲハの意味は止まっているときに翅を上に向けていることからきているという。
漢字名：黄揚羽

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

特定種

該当なし。

形態的特徴

黄色の鮮やかなアゲハチョウ。前翅長は約40mm（大きさはアゲハチョウ程度）。濃いめの黄色の地に、黒色の黒斑や帯があり、前翅基部の黒斑が三角状である。後翅には青色の帯と赤斑、尾状突起が見られる。春型は小型で色調も淡く、オスメスで大差はない。夏型のメスはオスに比べて大型で、地色が淡く、斑紋も

不鮮明である。

幼虫：終齢幼虫は全長約50mm。1～3齢幼虫は鳥糞状の隠蔽色。4～5齢幼虫は黒と緑の縞模様で橙色班をもち、鮮やかな色彩である。この模様は警戒色と考えられている。



前翅基部の黒模様は三角状

キアゲハ。春型、表（オス）



キアゲハ。春型、表（メス）



キアゲハ。春型、ウラ（オス）



キアゲハ。春型、ウラ（メス）



キアゲハ。夏型、表（オス）



キアゲハ。夏型、表（メス）



キアゲハ。夏型、ウラ（オス）



キアゲハ。夏型、ウラ（メス）

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卵期		■		■								
幼虫期		■	■	■	■							
蛹期	■		■			■	■	■	■	■	■	■
成虫期		■	■	■	■							

類似種と見分け方

アゲハ（十勝ではまれ）。

キアゲハは前翅基部の黒斑が三角状となり、地色も一般に黄色味が強い。アゲハでは前翅基部の黒斑が数本のス

ジとなる。

生育環境・分布

日当たりの良い草地を好む。ニンジン畑、市街地にも普通に見られる。

分布：国外分布は、旧北区ほぼ全域、北アメリカ北部。国内分布は、屋久島以北の日本全土。北海道内分布は、

全域。

十勝地方では、平野部から山岳部まで広く分布し、普通に見られる。

繁殖生態・寿命

年2回発生。春型は5～6月、夏型は6～7月に出現。越冬態は蛹。

産卵は食草の若葉の裏やシシウド等の散型の小花の柄に行われる。幼虫は食草の葉表に静止することが多く、発見は容易である。4齢までは黒色味が強く、鳥の糞によ

く似るが、終齢になるとあざやかな緑色に黒い縞とオレンジ色の斑点をもつ特異な色彩となる。

蛹化は食草を離れ、付近の草の茎や人家の壁などで行われる。寿命：不明。

他生物との関わり

*セリ科植物を食草とする。

*成虫はツツジ類、ユリ科、キク科の草本種の花を好んで吸蜜に訪れる。

*天敵としてムラサキヒメバチ、ヒメキアシフシオナガヒメバチ、アゲハヒメバチなどの寄生バチの記録がある。

幼虫の食性（食草）

ミツバ、セリ、エゾニュウ、ハマボウフウ、ニンジンなどのセリ科植物。



エゾニュウ(セリ科)。キアゲハ幼虫の食草の一つ

興味深い話

■幼虫は食餌植物を離れることは少ないが、高山等では石の上で日光浴することが観察されている。

■幼虫は大きくなると濃い緑色に黒いシマ模様とオレンジ色の斑点を混ぜた毒々しい色を持つようになり、物音に驚くと突然頭の付け根の所から2本のオレンジ色の肉の角を出し、しかも頭をのけぞらせるようなポーズをとって相手をびっくりさせる。そのうえ、この肉の角からは強い臭いが出る。この臭いはちょうどミカンの皮を強く

したような香りで人間にはそれほどイヤなものではないが、カエルや小鳥にはとても耐えられないもののようで、体の毒々しい色は「食べても美味しくない」ことを相手に強く印象づける役割を果たしており「警戒色」などと呼ばれている。

■十勝地方のアイヌ語では、キアゲハを「イチャヌイマレウレウ」といい、チョウ類一般を「マレウレウ」という。

配慮事項

環境への適応性はかなり広い種と思われ、特になし。

参考文献

「原色蝶類検索図鑑」猪又敏男 北隆館 1990

「日本のチョウ」海野和男、青山潤三 小学館 1981

「原色昆虫大図鑑 I (蝶蛾編)」北隆館 1978

「名前といわれ昆虫図鑑」栗林慧 大谷剛 偕成社 1987

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

「知里真志保著作集 別巻 I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類